

令和 5 年度学校経営報告書

八王子市立由木中学校長 川島 隆
同 副校長 児山 友美

Ⅰ 今年度の取組と自己評価

令和 5 年 5 月に新型コロナウイルス感染症の位置づけは感染上の分類を 5 類に引き下げられたが、学校としては引き続き感染防止対応を行いつつ、従来の学校行事の実施や効果的な方法を模索し、「学びを止めない」ために、多くの労力を割いた 1 年であった。感染症の流行には波があり、冬場はインフルエンザの流行と重なり、例年より学級閉鎖の回数が増えている。

第 3 学年の修学旅行、第 1 学年の移動教室は予定通り実施できた。感染症対策で多少の制約はあったが、宿泊行事を体験させることができ、生徒にとっても事前学習や事後学習の発表で主体的に学ぶ姿勢が身に付いた。

令和 5 年度の重点目標・方策及びその評価は別表のとおりである。

目標 1 の「学力の定着と向上」の項目別の平均は「3.1」、目標 2 の「豊かな心とキャリア形成」は「3.0」、目標 3 の「健康・生活指導」は「3.2」、目標 4 の「家庭・地域との連携」は「3.0」、目標 5 の「教職員」は「3.1」であった。「連携」の評価は、0.1 ポイントの上昇であり、小中一貫教育の推進が定着し、リトルティーチャーや運動会への生徒の派遣、ICT 機器を活用しての「はちおうじっ子サミット」の取組等がより活発化したことがうかがえる。新型コロナ感染症の影響で活動の機会が縮小されてはいるが、ICT 機器の活用頻度が増し、教員の姿勢は徐々に向上していると思える。

小項目で評価の低かった（2.5 以下）のは、「学校図書館の活用」（2.1）である。朝読書の設定や昼休みの貸し出し、移動図書室の企画、ブックトーク、読書競争、長期休業前の特別貸し出し等で工夫をしているが、電子書籍等の普及も影響している。来年度は、小学校と連携したビブリオバトル大会を企画し、図書館の効果的な活用を推進する。

高評価だった（3.4 以上）のは、「学習評価の充実」「大切にする態度の育成」「いじめの予防と対応」「愛情と共通理解に基づいた指導」「昼食指導」「法規の遵守とサービスの厳正」「業者との適切な関係」であった。学習指導に関して高評価のものがなかった。まだ 1 人 1 台タブレットを有効に使いこなせているとは言えないということであろう。

重点目標にした「いじめの予防と対応」については「3.5」で昨年度と同じである。認知件数は 7 件（1 年生 1 件、2 年生 5 件、3 年生 1 件 3 月 15 日現在）で、隔週に行うアンケート調査を活用し、早期の訴えにより、聞き取りや対応等が組織的に行われ、早期に解決をすることができた。学校運営協議会へも毎回報告を行っている。スクールカウンセラーをメンバーに加えたいじめ対策委員会を毎週木曜に設定し、定例で全 34 回行う

ことができた。「不登校が生じない学校づくりと支援」については「3.0」であり、「0.1」上昇した。魅力ある学校づくり、フラーリッシュのある学校づくりは継続しているが、子ども家庭支援センターやスクールソーシャルワーカー（SSW）と連携し、個に応じた対応に努めている。欠席が30日以上の不登校生徒は44人（2月末現在）と依然として全国平均を上回っている。「個に応じた学習の推進と学習課題（問題）の工夫」は「3.2」である。ICT機器の活用頻度は増えたと思うが、十分とは言えないというところであろう。「指導法の工夫と授業改善」は「3.3」であった。デジタル教科書やミライシードの効果的な活用について、研修会等の機会を複数回設けているが、最先端の技能には追いついていない。

学校関係者評価では、学校行事の実施、命の授業講演会、ビブリオバトル、各種検定試験、鑑賞教室について意見をいただいた。学校だけでは解決しにくい事項もあるが、生徒自身に考えさせ行動を促し、工夫して実施あるいは代替案を探っていきたい。

日本大学の熊谷圭二郎教授のお力添えもあり、ハイパーQ Uを活用した学級づくりについて研修会を複数回企画し、分析の方法等を学んだ。また、上柚木中学校長の三田村先生や上野指導主事を講師に招き、生徒指導力の向上についての研修会を企画し、教職員の研修意欲の向上に努めた。

2 次年度以降の課題と対応策

「GIGAスクール構想」は次々と新しい機能が追加され、機器の有効活用について、最新の情報を取り入れ、活用方法についての研修会に積極的に参加させ、伝達研修会の機会を多く設けたい。新型コロナウイルスについては、油断することなく、対策の継続を推進し、教育活動が制限されないことを望む。

学習評価、特に「主体的に学習に取り組む態度」の観点に関する評価に課題がある。授業改善は続けていかなければならない。遅れている生徒への手立てはとるが、進んでいる生徒、できる生徒の力も伸ばしたい。

来年度も【個に応じた学習の推進と学習課題（問題）の工夫】【不登校が生じない学校づくりと支援】【いじめの予防と対応】【指導法の工夫と授業改善】を重点課題として、さらに掘り下げて取り組んでいく計画である。

「生徒の人権の尊重」については、引き続き気を引き締めて取り組んでいく。「生活指導」については、現状に甘んずることなく、家庭・地域の協力を得ながら取り組んでいく。「PTA活動や地域行事」及び「情報発信」については、多くの者が参加したり情報発信したりできるよう心がけていきたい。

令和6年度の学校経営計画の項目は具体的に次のとおり考えている。教職員を職層に応じた技量を発揮できるように適材適所に配置し、確実に実施・遂行していきたい。

目標1 学力の定着と向上

A 学習意欲を引き出すとともに、指導方法の工夫を行い、個々の学力を確実に定着させる。

- ①【個に応じた学習の推進と学習課題(問題)の工夫】 ②【学習評価の充実】
- ③【意欲・向上心の伸長】 ④【学習指導内容の指導徹底と時間の確保】
- ⑤【少人数習熟度指導の推進】 ⑥【補習と家庭学習】
- ⑦【授業規律の徹底と学習姿勢の向上】 ⑧【適応、習慣付け】
- ⑨【学習のまとめりと本時のまとめ】

B 「主体的・対話的で深い学び」を推進し、言葉を使って考え、コミュニケーション力を高める。

- ①【フラーリッシュ理論に基づく指導法の工夫と授業改善】 ②【思考力・表現力の育成】
- ③【言語環境、言語活動の充実】

目標2 豊かな心とキャリア形成

A 多様性を尊重し、自分も他者も、生物や自然も大切にする態度を身に付けさせ、愛情豊かな生徒を育成する。

- ①【大切にしている態度の育成】 ②【体験による豊かな心情の育成】
- ③【特別活動の充実】 ④【探究的な学習の推進】
- ⑤【学校図書館の活用】 ⑥【校内研究の推進】

B 道徳の時間と学級活動を充実させ、心を豊かにし規範意識や人間関係力を身に付ける。

- ①【道徳教育の推進】 ②【学級活動の充実】
- ③【学校行事等の充実】 ④【計画的な指導と適切な位置付け】

C 勤労生産体験活動などのキャリア教育やボランティア活動を推進し、社会に貢献できる個人の育成を進める。

- ①【キャリア教育の推進】 ②【ボランティア活動の推進】

目標3 心身の健康と好ましい生活態度の育成

A 好ましい関係づくりを進め、いじめの予防と対応を徹底する。節度ある言動を身に付けさせ、みんなと気持ちよく生活できるようにする。

- ①【いじめの予防と対応】 ②【愛情と共通理解に基づいた指導】
- ③【個に応じた最適な指導法の選択】 ④【インターネット・ゲーム依存と情報モラル指導】
- ⑤【規範意識の育成】 ⑥【礼儀、挨拶、言葉遣い等の定着】
- ⑦【人間関係力の育成】 ⑧【主体性の育成】

B 特別支援教育を推進し、一人一人の能力や個性を伸ばしていく。

- ①【不登校が生じない学校づくりと支援】 ②【個別支援の推進】
- ③【組織的な特別支援教育の推進】 ④【インクルーシブ教育の推進】
- ⑤【適正就学の推進】

C 保健体育や食育、保健指導等を通し、健康や体力増進への関心を喚起する。

- ①【健康・体力増進の推進】
- ②【駅伝による体力向上】
- ③【家庭と連携した生活習慣の確立】
- ④【部活動での健康づくり】
- ⑤【昼食指導】

D 保護者・地域・関係諸機関と連携した安全教育を推進するとともに自分の命は自分で守ろうとする態度を育成する。

- ①【種々の安全教育の推進】
- ②【自分の命を自分で守る】
- ③【情報ツールの活用】
- ④【SNS学校ルールの周知】
- ⑤【危険箇所の迅速な対処】

目標4 家庭・地域との連携

A 小・中一貫教育を推進し、児童・生徒が健やかに着実に成長できるようにする。

- ①【小・中学校の連携】
- ②【生徒の小学校等への派遣】
- ③【保護者への啓発】

B 家庭・地域・学校支援機関との連携・協働を推進する。

- ①【学校運営及び支援活動への関与】
- ②【手本となる大人、相談できる大人】
- ③【地域の活用】
- ④【発信と啓発】
- ⑤【PTAへの啓発依頼】
- ⑥【地域行事等への協力】

目標5 誇りある教職員と組織的対応

A 自他の研修を進め、人材育成とサービスの厳正に努める。

- ①【研修の奨励】
- ②【自己申告と成果】
- ③【OJTの充実】
- ④【率先垂範、師弟同行】
- ⑤【法規の遵守とサービスの厳正】
- ⑥【予算の有効活用】
- ⑦【業者等との適切な関係】
- ⑧【異動や配置転換はキャリアアップの機会】

B 組織的な対応を行い、効果的な教育活動、働き方改革を進める。

- ①【主幹教諭を中枢とした学校運営】
- ②【考え尽した原案と会議の効率化】
- ③【情報の共有化】
- ④【連絡の徹底】
- ⑤【出張・研修の学校への報告と還元】
- ⑥【学校評価の活用と改善】
- ⑦【週案の記載と提出】
- ⑧【共助と気持ちのよい職場環境の推進】
- ⑨【校務改善の推進】
- ⑩【部活動の選択と集中】
- ⑪【提出物・回答の期限厳守】
- ⑫【主任や委員長が一人で抱え込まない組織運営】